

研究開発プログラム評価票（たたき台）

（令和元年度）

中目標③（環境エネルギー科学技術分野）：  
我が国の政府等が収集した地球観測データ等をビッグデータとして捉え、人工知能も活用しながら各種の大容量データを組み合わせ、環境エネルギーをはじめとする様々な社会・経済的な課題の解決等を図るプラットフォームの構築を図る。

中目標の達成状況の測定指標 （平成 28 年度～平成 30 年度）	事業名 （事業期間）	予算規模	評価 年度	評価の 種類	科学技術基本計画等への貢献状況 ※科学技術基本計画やその他政府の計画等への貢献状況	備考
地球環境プラットフォーム構築推進プログラムによって構築している地球環境プラットフォーム（DIAS）の利用者数 （2016：2,947人、 2017：3,662人、 2018：4,792人）	地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム	2016：4億円 2017：4億円 2017（補正）：1.7億円 2018：3.8億円 2018（補正）：2.8億円 2019：3.8億円 2019（補正）：4.6億円 2020（案）：3.8億円	2018	中間 評価	本事業では、地球環境ビッグデータ（観測情報、予測情報等）を蓄積・統合解析し、気候変動等の地球規模課題の解決に資する情報システムとして、「データ統合・解析システム（DIAS）」を開発するとともに、学術研究、国際貢献、産業利用等にデータを活用するための長期的・安定的な運用体制の構築を推進。学術研究への利活用を推進するとともに、水力発電の高効率化に向けた電力会社との共同研究等を通じ、データの産業利用を促進。また、洪水・渇水予測システムによる海外の防災・減災等への貢献や、GEO（地球観測に関する政府間会合）や IPCC（気候変動に関する政府間パネル）を通じた国際貢献を推進。 上記取組により、第5期科学技術基本計画に示されている、気候変動に起因する経済・社会的課題の解決のための地球環境情報プラットフォーム構築に貢献するとともに、「気候変動適応計画」に示されている“科学的知見の充実”にも寄与。	

研究開発プログラムの評価に当たっての気づき	今回の議論を踏まえ、事務局で記載
-----------------------	------------------

<参考>

大目標：

ICT を最大限に活用し、サイバー空間とフィジカル空間（現実世界）とを融合させた取組により、人々に豊かさをもたらす「超スマート社会」を未来社会の姿として共有し、その実現に向けた一連の取組を更に深化させつつ「Society 5. 0」として強力に推進し、世界に先駆けて超スマート社会を実現していく。（第5期基本計画）

地球環境の情報をビッグデータとして捉え、気候変動に起因する経済・社会的課題の解決のために地球環境情報プラットフォームを構築する。（第5期基本計画）

気候リスク情報等は、各主体が適応に取り組む上での基礎となるものであることを踏まえ、多種多様な気候リスク情報等の収集と体系的な整理を行うための気候変動適応情報にかかるプラットフォームについて関係府省庁において検討を行う。その際「科学技術イノベーション総合戦略2015」（平成27年6月19日閣議決定）において経済・社会的課題の解決に向けた重要な取組として位置づけられた地球環境情報プラットフォームの活用も含めて検討する。（気候変動の影響への適応計画）

研究開発計画（平成29年2月 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会（最終改訂 平成29年8月））

○気候変動適応計画（平成30年11月 閣議決定）

国は、気候変動及び多様な分野における気候変動影響の観測、監視、予測及び評価並びにこれらの調査研究並びに気候変動適応に関する技術開発を推進し、科学的知見の充実を図り、気候変動等に関する情報基盤を強化するとともに、科学的知見を気候変動適応に関する施策に活用する。

「統合イノベーション戦略」（平成30年6月15日閣議決定）において地球環境ビッグデータの学術及び産業利用を促進するために整備することとされている DIAS（データ統合・解析システム）の活用も含めて検討する。